

市が目指すスポーツで“つながる”まちづくりって？

スポーツで“つながる”まちづくりの実現に向けて必要なことって何？

市が目指すのは、障害のある人がスポーツに取り組むことが、特別ではなく当たり前で、スポーツを通して障害のある人もない人も共に生きる社会の実現です。それは、全ての人々が互いに理解し合い、幸福で豊かな生活を営むまちとも言えます。皆さんに障害者スポーツそのものをより広く知っていただくことが、そんなまちづくりへの第一歩です。皆さん、障害者スポーツに触れる機会があれば、ぜひ参加してみてくださいね。最後に、市職員であり、2004年アテネパラリンピック水泳競技の銅メダリストでもある軽部弘さんからのメッセージを紹介します。



軽部弘さん(つくば市市民部男女共同参画室係長)

2000年シドニーパラリンピックに水泳競技で7種目に出場し、5種目で入賞。2004年アテネパラリンピックは50m平泳ぎで念願の銅メダルを獲得。その後、日本パラ水泳協会理事を務め、現在、関東身体障がい者水泳連盟理事長。関東パラ水泳大会、普及合宿を担当し、障害者水泳の理解と支援を広げる活動に取り組んでいる。



つくば市の特徴は、スポーツ振興施策の中で、障害者スポーツの振興を推進しているところです。障害のある人も、生涯スポーツとして、仲間づくりや楽しみづくり、健康の維持増進などを目的に、自主的かつ積極的にスポーツを行うことができるよう、障害の種類・程度に応じて必要な配慮をしつつ推進していくことがまちづくりとして必要だと思います。最後に、パラリンピックを目指す人々も、アスリートとして自分の限界に挑戦し、努力していることを皆さんに知っていただきたいです。

コラム 東京2025デフリンピック※大会エンブレムに筑波技術大学の学生のデザインが採用!

エンブレムをデザインしたのは、岩手県生まれで筑波技術大学4年生の多田伊吹さん。障害のある人や高齢者など、誰もが使いやすい製品のデザインなどを学ばれています。多田さんがデザインしたエンブレムは「手」を表し、デフリンピックを通して互いの交流などが「輪」のようにつながった先には、新たな未来の花(桜)が咲いていくことが表現されています。



筑波技術大学
つくば市に所在する、日本で唯一の聴覚障害者・視覚障害者のための大学。聴覚障害のある学生が学ぶ産業技術学部と視覚障害のある学生が学ぶ保健科学部があります。

※ろう者のためのオリンピックのこと。

アンケートへのご協力をお願いします。

今後の発行の参考とさせていただきますので、「もっと知りたい!つくば市かわら版 第27号」をお読みになったご感想などをお寄せください。(各号ごとのアンケートとなります)

※個別の質問にお答えすることはできません。

▶ <https://r.qrqrq.com/LA20RyP0>

パソコン スマホ

でつくば市かわら版をいつでもどこでも!

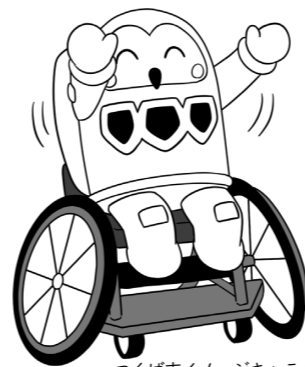
市ホームページ



マチイロ



市公式YouTube



つくば市イメージキャラクター フックン船長

もっと知りたい!

つくば市 ばん

かわら版

第27号



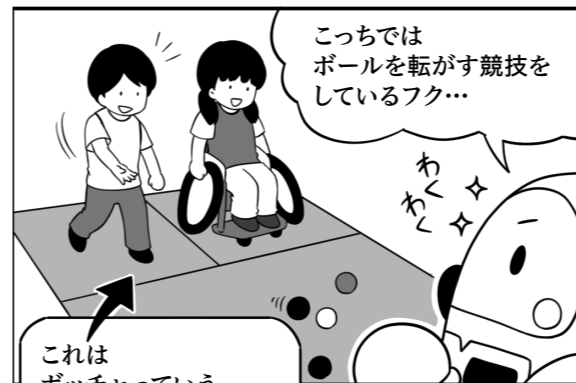
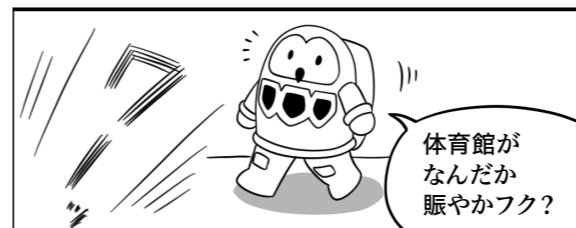
つくば市長 五十嵐立青

2023年11月15日

皆さんのギモンに市長が答えます

今回のテーマ 障害のある人もない人もスポーツでつながるために

図▷スポーツ振興課▷スポーツ施設課



ボッチャの説明は2ページ目ですよ!

ギモン 01 障害のある人もない人も一緒にスポーツを楽しもう

そもそも障害者スポーツってどんなもの?

東京2020パラリンピック競技大会で初めて障害者スポーツを知った方も多いと思います。パラリンピックの正式種目には、車いすバスケットボールやシッティングバレーボールなど多くの競技があるんです。障害者スポーツは障害の特性に応じて工夫されていて、どの競技も白熱したプレーが繰り広げられているんですよ。障害のある人もない人も参加でき、一緒に楽しむことができるんです。市では「スポーツで“つながる”まちつくば」をスローガンに、スポーツを通して人や地域がつながるまちづくりを進めています。誰もが楽しめるスポーツである障害者スポーツを推進していくのは、まちづくりを進めていく上でとても重要なんです。

障害者スポーツにはどんな種類があるの?

身体障害や視覚障害など障害の種類によって、競技用車いすに乗ってプレーをする車いすバスケットボールや、アイマスクを装着してプレーするブラインドサッカーなどがあります。また、障害のある人のために考案された独自のスポーツであるボッチャなどもあり、障害の程度に応じてクラス分けやルール・用具も工夫されているんですよ。一方で、障害者スポーツの認知度は低く、情報に触れる機会がない、気軽に体験できる機会がない、利用する施設に不安があるなどの課題もあります。市では、より多くの人に障害者スポーツを身近なものとして広げていくための取り組みを進めています。

次のページで市のさまざまな取り組みを紹介するよ!

ギモン 02 障害者スポーツを広げていくために、市はどんな取り組みをしているの?

1ページ目で抱いたギモン・・・
体育館で車いす競技ができるの?

いいところに気が付きましたね!せっかくやってみようと思っても、できる場所がなくては意味がありません。車いす競技は、競技の種類にもよりますが、比較的激しいプレーが多いのが特徴なので、体育館の床などが傷ついてしまうことを懸念して車いす競技が禁止になっている体育館は少なくないんです。そのような中で、市では、全ての市営体育館で車いす競技ができるようにしています。実はこれ自体が珍しい取り組みなのですが、その上で、車いすスポーツ教室を開催したりして、障害者スポーツができる環境づくりと普及していく取り組みを一緒に進めています。



車いすバスケットボール



ボッチャ

ボッチャとは…ジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競う競技。

その他のさまざまな取り組み

障害児運動教室

障害を持つお子さんの体力づくりや健康増進などをサポートします。

【時期】6月～3月

【場所】いきいきプラザ

【対象】市内の障害のある小学生

体験乗馬療法

ポニーに乗ることを通して動物と触れ合う心を養いながら、障害のある人もない人も交流ができます。

【時期】3月(チャレンジアートフェスティバル内で開催)

【場所】大清水公園

その他、障害のある人もない人も集いスポーツやレクリエーションを楽しむ「おひさまサンサン生き生きまつり」の開催や、茨城県が開催する障害者スポーツ大会の募集案内などの協力を行っています。これらの参加方法などについては、障害者地域支援室にお問い合わせください。

実際にやってみたくなってきた!
気軽に体験できる機会はあるの?

もちろんあります!まず、2024年1月に車いす卓球やボッチャなどを体験できるイベントを予定しています。誰でも参加できるので、興味がある方は広報つくば12月号などをチェックしてください。また、毎月、車いすバスケットボールの体験教室も開催されています。さらに、毎年9月ごろには「つくばスポーツフェスティバル&つくパラ」も開催しており、車いすバスケットボールやボッチャのほか、ハンドアーチェリーなど多くの競技を体験できます。子どもも参加できるので、親子で楽しそうに体験している姿もよく見られます。こういった取り組みを通して、障害のある人もない人も一緒に楽しむ機会を増やしているんです。詳細はスポーツ振興課にお問い合わせください。

障害者スポーツを広める他の取り組みは?

人材育成にも力を入れていますよ。障害者スポーツを広げていくためには、指導や支援ができる人の存在も欠かせません。そのような人を増やしていくために、つくば市スポーツ推進委員*を対象に、障害者スポーツを体験したり障害のある人がスポーツをする際の支援方法を学んだりする研修を実施し、地域に根付いた障害者スポーツの普及促進をしています。
*市町村でのスポーツ推進を担う非常勤の公務員。スポーツ実技の指導や事業の企画・立案・運営のほか、住民・行政・スポーツ団体間の円滑な連携の調整などを行う。

ギモン 03 誰もが安全に安心してスポーツを楽しむには?

誰もがスポーツを楽しむには、
利用しやすい施設が必要だよね?

まさにそれが一番大事なことです。車いす利用者などにとって、出入口のスロープや利用できるトイレがないことは、スポーツ活動を妨げる原因になってしまいます。そこで市では、誰にとっても利用しやすい施設にするため、スポーツ施設の改修工事などに合わせて順次バリアフリー化を行っているんです。また、今新たに整備している施設は障害者支援団体などの意見を取り入れながら施設整備を行っているんですよ。

市では、安心して施設が利用できるよう広報つくばや市ホームページで体育館内の整備情報をまとめたフロアマップを公開する予定です。ぜひチェックしてみてください!

今整備している新しい施設って何?

みどりの地区に新しい屋内温水プール施設「みどりのプール」を建設しています。施設の中には、プールの他に会議室などもあります。みどりのプールは、誰もが安心して利用できるユニバーサルデザイン*を取り入れ、設計段階で障害のある人や介助者の方から意見を聞き、トイレの整備、誘導ブロックの設置、案内サインの位置や大きさなどに配慮しました。例えば、一般の更衣室とは別に「だれでも更衣室」を設置し、更衣室内に整備するトイレは、障害のある人や介助者の動線にも工夫しました。オープン後は、誰もが参加できる水泳教室などの開催も予定しています。
*年齢、性別、文化、身体状況など、人々が持つさまざまな個性や違いにかかわらず、全ての人にとって利用しやすく、暮らしやすい社会となるよう、まちや建物、もの、しくみ、サービスなどを提供していかこうとする考え方のこと。

可能な限りのバリアフリー化を順次進めています



勾配がゆるやかで安全

体育館の出入口にはスロープを設けており、車いすやベビーカーなどの利用も安心して通行できます。



車いすの人にもやさしい

体育館内には車いす利用者でも利用しやすいトイレを設けています。



みどりのプール内観(イメージ)

「みどりのプール」は、2024年度から皆さんが利用できるように工事を進めているフク!完成を楽しみに待っててフク!

市ホームページ「みどりのプール整備」▶

